

# 風のように

甘木教会

★  
JOY  
LOVE  
PEACE  
BELIEVE  
CHRISTMAS



牧師：竹田孝一

あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。

フィリピ信徒への手紙1：6

人は皆、神の救いを仰ぎ見る。

ルカによる福音書3：6

## 【説教要旨】「クリスマスー神へ向かう」

福音書の聖書日課は、マルコも、マタイも同じようにイザヤ書40章から引用していますが、ルカはさらに引用を伸ばして、「人は皆、神の救いを仰ぎ見る。」という言葉を入れています。神の救いを「皆」は見ると言うのです。「皆」をルカは強調します。

引用したイザヤ書の箇所は、第2イザヤと言われています。時代はユダヤ人がバビロニア帝国によって滅ぼされ、奴隷として異国の地、バビロニアに連れられていった「バビロニア捕囚」の時代です。教会讃美歌459番に「バビロンの流れのほとりに坐り、都を思ってなみだにくれた」という歌詞のように苦しい時代で、都エルサレムに向かって望郷の念を強くしつつも、帰ることが出来ない厳しい現実の中で生きざるを得なかったのです。希望なく、荒れた世界でした。「荒野」です。

しかし、その荒野にいる洗礼者ヨハネは、「神の言葉が荒野でザカリヤの子ヨハネに降った。」という経験するのです。荒野に神の言葉が降ってくる。つまり、神の意志が降ってくるということです。

荒野は、命のない世界です。しかし、この命のない世界に神の言葉が降りて、新しい出来事が起きるといいます。

私たちは、時代の大変化の只中にいて、今年も、多く道なきところで荒れた世界を切り拓く、あるいは流されて歩んできた現実を見、生き、

希望を失い、あるいは嘆きの中にいたかもしれません。しかし、荒野は、「神の言葉が荒野でザカリヤの子ヨハネに降った。」とあるように、神の言葉、神の意志が降る場所です。道なき荒野で、洗礼者ヨハネは聞くのです。

『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』

道なき荒野に道が付き、まっすぐにされ、すべての障壁はなくなるといふのです。この声を悲嘆にくれていた民は聞くといふのです。民とは？

神の民、ユダヤ人だけが救われるという選民思想を抛り所としていた人々に、すべての人に救い、道が与えられているのだというルカ福音書のメッセージは、大きな衝撃を与えたでしょう。「皆」です。

どう進むべきか、どう道をつけていくか、そういう日々の葛藤が私たちの前に課題として横たわっています。私たちの行く手を阻んでいるこの荒野、時代と言ってよいでしょう。ここから声が嘆きと悲嘆が叫びだされているのです。叫んでいるといふのです。私たちの声は、救いようのないところでうめき叫んでいます。第二イザヤの時代、ユダヤ人が叫んだように。しかし、聖書は私たちの声とはまったく違う声が叫んでいるといふのです。荒野に既に道が用意されているといふのです。私たち皆の道は開かれているといふのです。まったく思いもよらないところで主が道を備えてくださっているといふのです。絶望の声でなく、希望の、未来が切り拓かれたという声を私たち皆は聞くことが許されているのです。それはすべての人に向けられているのです。

### 人は皆、神の救いを仰ぎ見る。

誰ひとりも例外なく神の救いを見ることが許されている幸いが私たちの前にあるのです。

私たちが道を切り開くのではなく、神が道を切り拓いてくださるのです。アウシュビッツ収容所という極限の中で、フランクは、両親も家族も娘も亡くします。彼は次のように言います。「人生や社会から何ができるかが問題でなく、おかれている状況の中で、たとえその状況が好ましいものでもなく、やむ得ないものだったとしても、私たち自身が何ができるかが、

いつも問われなければならない」

苦悩にあって、「私たち自身が何ができるかが、いつも問われなければならない」と積極的に担っていくこの勇氣は、**神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った**とある事実が起きるからです。パウロは、これを次のように告白します。「あなたがたの中で**善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。**

」、「**善い業を始められた**」と、神ははたらかれておられるというのです。荒野の苦悩のなかに叫びつつ、神の声を聞き、「私たち自身が何ができるかが、いつも問われなければならない」という現実を豊かに生き抜いていく力が与えられるのです。

『**主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。**』

クリスマス、神の子・イエス・キリストの誕生、言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。ヨハネによる福音書 1:14の言葉が、洗礼者ヨハネだけでなく、「皆」に降ったのです。わたしたちの間に宿られています。神の子・イエス・キリストへ向かって、私たち皆の道もあります。厳しく、嘆きある荒野と思われた世界は、命の湧き出るところとなります。荒野に引かれた道を主とともに踏み出していきましょう。

クリスマス、神へ向かうことを私たちに再び教えてくれる季節となりました。神へ向かい、喜びを、希望をもってクリスマスを共にお祝いしましょう。

祈ります。

わたしは、あなたがたのことを思い起こす度に、わたしの神に感謝し、4 あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています。5 それは、あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。

フィリピ信徒への手紙1:3-5



我らの神の憐れみの心によって、

高い所から曙の光が訪れ、

暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、

我らの歩みを平和の道に導く。 ルカによる福音書1：78－79



愛する主なる神よ、わたしたちを目覚めさせ、あなたのみ子がおいでになるとき喜びをもって迎え、またあなたに純粋な心で仕えることができるように備えさせてください。

あなたのみ子、私たちの主、イエス・キリストによって。

アーメン。

『ルターの祈り』 石居正己編訳 聖文舎

### 我らの歩みを平和の道に導く

クリスマスのはじめは、詩篇だけでなく、イザヤ書などの旧約聖書、福音書、使徒書にある讃歌が讃美唱となっています。今日の讃歌は、「ザカリア讃歌（ルカによる福音書1：68－69）」です。

今、ウクライナへのロシアの侵略、イスラエルのパレスチナでの殺戮、これに対するアラブ過激派による報復、アフリカの紛争、特にスーダンの紛争は860万人の難民を生み出している。

台湾問題、尖閣諸島の問題は、中国と一触即発の戦争への道を進んでいるような日本の状況もある。ウクライナのようなことが大国、中国によって起こされる現代が日本に近づきつつある。

そんな歴史は人類の歴史の中であった。しかし、もう一つの真実もあった。「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」という神の御手が働いている歴史の事実である。私たちはたとえ暗闇と死の陰が私たちの前にならうと、神の憐れみによって、闇を開く曙の光が訪れるのです。それが神の歴史です。この歴史を生きるゆえにわたしたちは、「平和を実現する人々は、幸いである」というイエスのみ言葉に生きていくのです。もっと、平和を実現するために汗を出すものが神の子であることのように神の子とされましょう。

祈り：平和を実現される神よ、私が神の御手にうながされ、さらに、平和を実現することに熱心となりますように。アーメン。

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



アフガニスタンで人道支援をなされていた中村哲さんが凶弾に倒れて、4日で5年目になる。亡くなられたと  
(山田堰) き、神は何をなさるのだろうかと天をあおいだ。幸い中村哲の意志は「ペシヤワール会」に引き継がれて、現地で用水路建設や医療活動を続けている。私たちの教会もこの活動を支援している。

中村哲さんの講演会を初めて聞いたのは、静岡のときであった。今も印象に残っているのは、医療活動を続けつつ、分かったことは、何よりも大切なことは「水」であるということ、そのために戦争で荒れた土地に水をどう運ぶかということであるといわれた。そして、亡くなられた後もペシヤワール会は活動し、用水路3本を建設し、約2万3800ヘクタールの耕地を作ったと報告がある。

(山田堰の中村哲さんの碑⇒)

用水路の方法は、福岡県の筑後川から水を取り入れた山田堰からヒント得て、アフガニスタンに工法を取り入れたと聞く。今、堰の近くに中村哲さんの碑が堰を見守っている。「平和を作り出す者は幸いである」ということ、「神の子と呼ばれる」というイエスの言葉が碑の前で聞こえてくる。



## 園長・瞑想? 迷走記

職員はいくらいても足りない。しかし、幼稚園の運営費にも限界がある。園児の保育環境をいくら改善してもこれで良いとはならない。やはり、幼稚園の運営費には限界がある。

そう思っても、子ども一人一人が元気に、安心した所、幼稚園にするという理想を持っている以上、やっていくしかないが現実にははるかに厳しい。

そんなとき心が怯むこともある。覚えた少ないみ言葉を思い出しつつ、キリスト教保育連盟が出している今月の聖句、「さあ、ベツレヘムに行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか。」という羊飼いの言葉を思い出した。神の所に行こう、きっとアドナイエレ 主が備えて下さるところに呼び返される。

神の所に呼び返されるのが、日々の園庭の庭掃除の時である。

## 甘木通信

クリスマスは、イエスさまの誕生である。家内は、親しい方が誕生したときに、「育児日記 誕生から3歳まで」（婦人之友社）をプレゼントに送っている。孫が生まれたときにも送った。31版を重ねる名著である。



名著？それは、保護者が毎日、毎日、記録としてどう子どもが育っていたか、何に気付いたかを書き綴るのである。その歳、その歳に欄外に子どもの発達や、こういうふうにしたらという提案や、注意などがある。

「こうしてつけた育児日記は、こどもへのすばらしいプレゼントです。大きくなったとき、自分の育った時代、環境を知り、その中で、どんな思いで父母が自分を育てたのかを、まわりの人々の深い愛情を、喜びをもって読むことでしょう。……あなたの育児日記は、世界でたった一つのかげがえのない宝物です。」

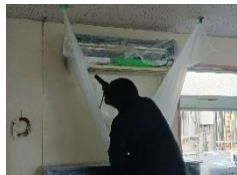
残念ながら、我が家の子どもたちはこの宝物がない。子どもたちはブラジルで生まれ、育ったので手に入れることが出来なかった。日本からの本は高価でとても買えるような状況でもなかったこともあった。

子どもに届けられなかったその分、多くの方に宝物を届けようとしているのかもしれない。今回も初孫をいただいた方に送ることにした。これから迷惑かもしれないが、送り続けようと思っている。



(甘木日記)土) 空調、トイレの掃除の業者が入り幼稚園に行き、昨日集計した自己評価委員会アンケートを作成。夕刻に甘木。真っ暗、日が落ちるのが早い。日) 聖餐式礼拝、アジアの青年も2週間続けて休んでいるので心配。出席者が少ない。すぐに久留米教会の役員会に幼稚園報告に行く。夜は保護者男性らとクリスマス祝会の劇の打ち合わせ。食事会もあり、交流が出来たかな。メールにクリスマスカード、案内の資料が届く。月) 職員が一人休み、その分の仕事も増えたが、知らない面もあり、また新しい体験。火) 朝も早く行き、帰りは最後にということで少々疲れて早寝する。水) 4時から起きて教会の作業。木) 聖誕劇の通し練習。事情により劇に出ない園児がいて、会堂の外に出て一緒に遊ぶ。午後から施設評価委員会。準備では大変だった。良い意見をいただき感謝。金) 一日、幼稚園で事務作業と昨日に続き、子どもの世話をする。役員会の遣り取り。寒い日。

**おまけ・牧師のぐち** (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師) もいますが。



土) 幼稚園の空調、トイレの掃除の業者さんが入る。トイレも空調も綺麗になる。衛生管理には注意していかなくてはいけない。昨日、集計した自己評価委員会アンケートに基づき評価シートの作成。夕刻6時だが真暗、山の日の落ちるのは早い。

街の公園でクリスマス電飾がピカピカ。多くの人が集まっている。日) 聖餐式礼拝、出席者が少ない。アジアの青年も2週間続けて休んでいるが心配。すぐに久留米教会役員会に幼稚園報告に行く。夜は保護者男性らとクリスマス祝会の劇の打ち合わせ。楽しい劇の練習となる。食事会もあり、交流が出来たかな。東京の2園の関係ある幼稚園からクリスマスプレゼントのお礼のメールがきている。懐かしい、感謝する人たちがばかりである。月) 職員が一人休み、その分の仕事もあるが体験は楽しい。また担当職員の資料を他の職員が準備してくれてくれる。感謝。施設評価の資料準備。東京では、息子が全部準備、お伝建てしてくれていたから助かったが今回は自分でやらなければいけない。息子に感謝。どこまで体力、気力が続くかと思いつつ楽しもう。今日は通園バスに乗る。良い経験。火) 牧師館、教会、幼稚園が同じ場所だったので、時間は調整ができていたが、朝も早くいかなければいけないのでバスで行く。帰りは最後に園を出る。長時間の幼稚園の仕事は少々疲れる。良い面もある。早寝。水) 4時に起きて教会の仕事、役員会議事案を作り、役員に送る。午前中は、剪定した枝を片付ける。しなければいけないと前のめり。ゆっくりと。職員会議、帰りが遅くなる。アフガニスタンで人道支援に命をささげた中村哲さんが亡くなって5年。何もしていない私が生き残り、彼が天に帰るとは神はどうにかしていると思う。もっと生きて活動をしてほしかった。

木) 聖誕劇の通し練習。まだ日本に来て数か月の園児にとって何がなんだか分からないのか騒ぐ園児がいて、外に出て一緒に遊ぶ。そんな園児と一緒にいて、ブラジル日系移民を思い出す。言葉の分からないブラジルで、幼い子供たちはどうしていたのだろうか。午後から施設評価委員会。準備では大変だった。これを東京では次男がすべて用意をしてくれていた。感謝である。良い意見をいただき感謝。庭のヒイラギの花から香りが漂う。金) 今日一番に幼稚園に来る。しかし、大切な筆箱、ここにUSBが入っていて忘れていたのに気づく、取りに急いでいく。明日の甘木に行くカバンに入れていた。そんな自分を笑ってしまう。19:30分に帰宅。

